

大阪・関西万博における滋賀県ブース（仮称）
出展基本計画（骨子）

1. 全体概要

(1)大阪・関西万博の概要	02
(2)出展の意義	02
(3)SDGsへの貢献	02
(4)出展の目標	03
(5)来県促進のための方針	03
(6)出展参加のテーマ	03
(7)オール滋賀での万博参加	04
(8)関西広域連合との連携	04

2. 展示計画

(1)展示基本方針	05
(2)展示の概要	05

3. 催事計画 07

4. 運営計画

(1)運営基本方針	07
(2)運営個別計画	07

5. レガシーの活用 08

6. 全体スケジュール 08

1

全体概要

(1)大阪・関西万博の概要

- 名称 2025年日本国際博覧会／（略称「大阪・関西万博」）
- 開催場所 夢洲（大阪府大阪市臨海部）
- 開催期間 2025年4月13日（日曜日）～10月13日（月曜日）184日間
- 来場者数（想定） 約2,820万人
- テーマ いのち輝く未来社会のデザイン “Designing Future Society for Our Lives”
- サブテーマ
 - ・ Saving Lives（いのちを救う）
 - ・ Empowering Lives（いのちに力を与える）
 - ・ Connecting Lives（いのちをつなぐ）
- コンセプト
People’s Living Lab（未来社会の実験場）
- 関西広域連合パビリオンテーマ
いのち輝く関西悠久の歴史と現在

(2)出展の意義

万博会場に関西広域連合として関西パビリオンを設置します。関西パビリオン内には、「滋賀県ブース（仮称）」を設け、滋賀県へのゲートウェイとし、県内への誘客や移住、また新たなビジネスのきっかけづくりを促進します。琵琶湖を始めとした自然とともにある人々のいとなみは、先人から脈々と受け継いできたものであり、「いのち」に光を当てた万博の理念に共鳴する価値として、万博を通じて多くの人々に伝えていくとともに、県民にとって県の魅力を再発見できる機会を創出していきます。

(3)SDGsへの貢献

ブースの展示、運営、催事等、あらゆる局面において、国際連合が提唱するSDGsの理念に配慮した取組を検討します。

(4) 出展の目標

滋賀県ブース（仮称）への目標来館者数

約30万人

現時点で想定される出展会場のキャパシティと大阪・関西万博の会期日数などを元に推計した人数です。

大阪・関西万博を契機とした滋賀県への目標誘客者数

約300万人

大阪・関西万博へ来場される2,820万人に対して、コロナ以前（令和元年）の滋賀県への来訪率を掛け合わせて算出しています。経済波及効果だけでなく、県民や事業者の実感度を測る指標（※KPI）を設定します。

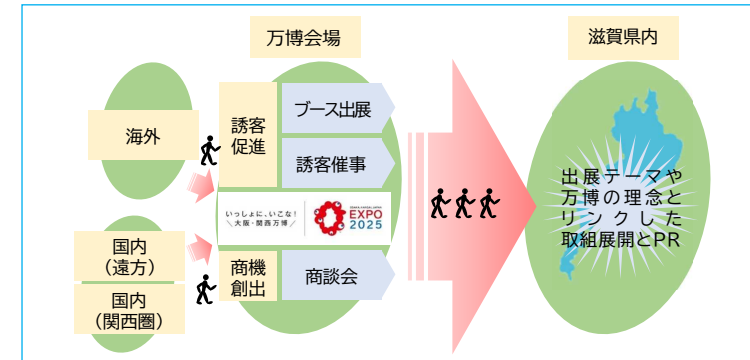
さらに関連事業と合わせ、滋賀県への観光誘客、移住促進、ビジネスチャンスの拡大を図ります。

※KPI：重要業績評価指標（Key Performance Indicator）の略。
目標達成のための具体的な行動指標をいいます。

(5) 来県促進のための方針

会期中は万博会場をゲートウェイとして県内への人流を促進します。万博会場と県内の取組を効果的に連携させることで誘客促進や商機創出など多くの効果を生み出します。

(1) 枠組み



(2) 効果

認知度向上、観光客増、移住促進、商機拡大等

(6) 出展参加のテーマ

(仮) Mother Lake ～びわ湖とともに脈々と～

滋賀の人々は、はるか昔から、琵琶湖のそばで、琵琶湖を活かし、琵琶湖を守り、さまざまな知恵や工夫を用いながら共生してきました。

そしてこれからも、新しい技術を生み出し、取り入れながら、持続可能な生活を、築いていきます。

そんな独自のいとなみに、あなたも触れてみませんか。

そして、新しい未来を創造してみませんか。

(7) オール滋賀での万博参加

関西では55年ぶりの万博開催。この機会に興味をもっていても参加方法がわからない、参加タイミングがない、と感じられている方も多いと想定されます。本計画においては「オール滋賀での万博参加」を重視し、会期前・会期中・会期後と全期間を通して県民・事業者・県内市町との共創を目指します。

県民との共創

県民生活に密着したさまざまな媒体を通じ、万博に関する情報や滋賀県の取組等を発信。県民参加の情報を届け、オール滋賀での万博参加を目指します。

事業者との共創

誘客プログラム造成への参加や、展示・催事等を通じた情報発信等、経済活動の活性化を見据えた取組を推進します。

県内市町との共創

各市町の持つ魅力を発信するため、地域の資源磨き上げや、催事参加、誘客プログラム実施、さらにはレガシーとしての活用を促進します。

(8) 関西広域連合との連携

関西広域連合の一員として、関西パビリオンを盛り立てていくほか、一体的な催事を開催する際は、関西を共に盛り上げつつ、滋賀県の特長が活かせる企画について検討します。

2

展示計画

(1) 展示基本方針

<展示コンセプト>

「(仮) Mother Lake ～びわ湖とともに脈々と～」を体験する

Mother Lake アドベンチャー

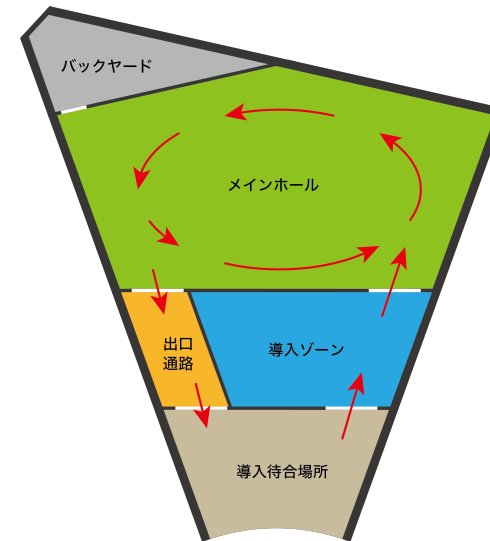
琵琶湖は、古代より滋賀県のみならず、関西広域の人々の暮らしに深く関係してきました。この母なる湖、琵琶湖を自然・文化・産業の視点で紹介し、その魅力を探求・発見していく展示体験を用意します。いのちを繋ぐ水と自然の尊さ、長い悠久の歴史に培われた人々のいとなみ、そして現代に暮らす私たちが直面する、環境問題への視座を伝え、いのちの大切さ、豊かな生態系を未来に繋げていき、未来を担う子どもたちに伝えます。なお体験にあたっては、性別、文化、言語の違いや障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめるよう配慮するほか、特に子どもたちがワクワクできるような展示体験を提供します。

(2) 展示の概要

<ゾーニング&ストーリー>

滋賀の魅力に出会う「滋賀まるごと体感映像」

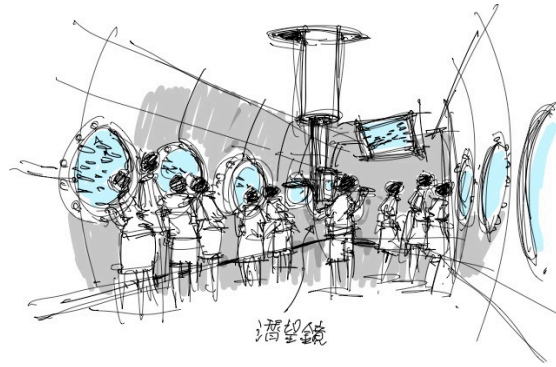
導入ゾーンでは潜水艇型の映像空間に入り、琵琶湖が誕生した400万年前から現代までを旅するアドベンチャー体験で400万年の間に培われた滋賀の豊かさを伝えます。メインホールでは、琵琶湖を中心に美しい滋賀の全景が広がり、没入感のある全面映像の劇場空間が来館者を滋賀県の世界に惹きこみます。滋賀県を体感し、記憶に残る体験を提供します。



●導入ゾーン

琵琶湖の水中探索から始まる導入演出

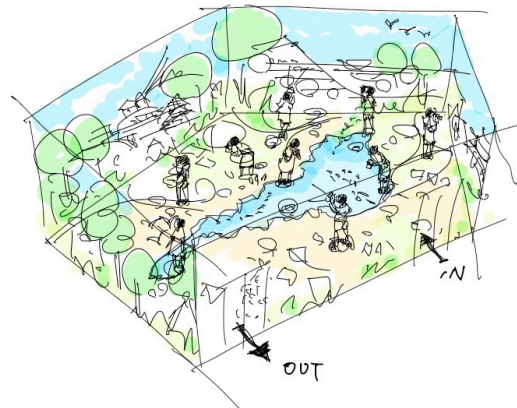
琵琶湖が生まれた400万年前に遡り湖底や水中・湖面を散策！日本唯一の古代湖の魅力を探ります。独自の生態系や琵琶湖の成り立ち、湖上に浮上すると、舟運の様子など滋賀の人々のいとなみを紹介します。



●メインホール

滋賀の魅力を結集した劇場空間

琵琶湖を中心に、滋賀のパノラマが一面に展開する映像空間を検討。さまざまな生き物、歴史、文化、先端技術等、滋賀県独自のコンテンツを来館者自らが「探す・集める」といった体験を通じて、滋賀県の魅力を探ります。また、体験を通して、持続可能性や滋賀の豊かな自然を未来へつなげる大切さを訴求します。



<展示コンテンツの展開>

●展示コンテンツの水平展開

VRゴーグルを使った配信や映像コンテンツの配信（各種メディア、WEB、SNS、動画配信サイト）転用等を見ずえて、コンテンツの汎用化手法を検討します。また、県内外の展示会場にて、滋賀県展示ブースのコンテンツの水平展開を計画します。

●WEBパビリオンとの連携方針

関西広域連合では、関西パビリオンをWEBでも出展予定です。このWEBパビリオンの仕様も踏まえて展示コンテンツの連携を図り、相乗効果を生み出します。

3

催事計画

滋賀県における多様なネットワークを活かし、すべての県民、特に未来を担う子どもたちや、あらゆる事業者の幅広い参加を促進。パビリオン、会場、県内を効果的に活用し、リアル×バーチャルの2方向による催事展開で滋賀県内の市町と催事会場を結び、会期中・会期後の来県を促します。

また、人と琵琶湖のいとなみや歴史、そこから生まれてきた英知や、暮らしの知恵、産業の技を、人から人へ語り継ぎ、楽しく体感できる催事を展開し、(仮)滋賀ウィークを構成。催事会場でのライブ感・先端技術を活用し、ワクワクできる未来感のある体験により、滋賀県へ行ってみたい、住んでみたい気持ちを喚起させます。あわせて双方向の視点を持ち、県内での催事をきっかけとした、万博会場への来訪も促進していきます。

4

運営計画

(1)運営基本方針

「滋賀県ブースに来てよかった、滋賀に行ってみたい!」と、子どもから大人まですべての来場者が感じられる、滋賀らしいおもてなしの心あふれる運営を目指します。そのために、万博全体および関西パビリオンで定められる諸条件を遵守しながら、各計画項目を詳細に検討します。

(2)運営個別計画

ホスピタリティ計画	衛生管理 清掃・ごみ処理計画	雇用計画	
ICTソリューションの活用などにより、子ども、外国人、障害のある方などすべての来場者への配慮を行います。	万博協会の会場衛生要項の遵守を基本とし、SDGsを考慮した独自の計画策定と実施体制を構築します。	ブースのレイアウトに応じた適正配置により、効率的な運用を図るとともに、人員構成や雇用形態などを考慮してさまざまな方の活躍機会を創出します。	
案内誘導計画	警備計画	消防防災計画	保険などの計画
コストと効果を鑑みながら、ブース展示の魅力を最大限に活かす案内誘導配置と運用を計画します。	万博の通門ルールの遵守を基本とし、関西パビリオンの警備計画と連携した計画を策定します。	避難誘導などの計画とそれに伴う自衛消防隊の体制を構築。万博協会運営との連携方法や防災訓練なども考慮します。	想定されるリスク項目を洗い出し、保険加入などの計画を策定します。

※ 関西パビリオン内の会場管理関連人員や、それに伴う予算割当なども考慮して調整

5

レガシーの活用

万博での取組を、会期後もレガシーとして有効に活用し、交流人口、※関係人口、定住人口の増加や子どもたちの教育につなげます。

来場者の属性を分析した上で、ニーズとマッチングを図ります。会期後の観光事業における万博コンテンツの活用を検討するほか、滋賀ぐらしの魅力発信や、商談会、施設見学会の開催についても検討します。また、取組によって滋賀県の魅力を再発見できる機会の創出により、子どもたちの教育にレガシーを役立てていくなど、※シビックプライドのさらなる醸成につなげていきます。

※関係人口：地域と多様に関わる人々を指す言葉。

※シビックプライド：「都市に対する市民の誇り」という概念。シビック（市民の／都市の）は権利と義務を持って活動する主体としての市民性という意味。

6

全体スケジュール

